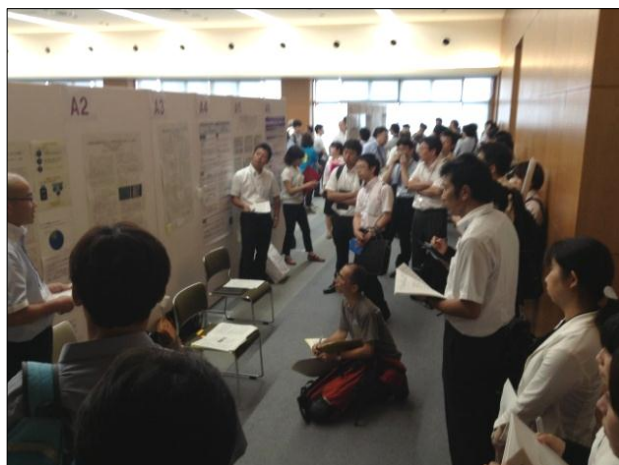


1 これまでの研究の取組から

本校では平成23年度より3カ年の計画で、「キャリア教育の視点に基づく学校システムの再考」(サブテーマ:一人一人が自立的に活動する姿を求めて)をテーマに研究を進めてきました。

まずはキャリア教育の概念の理解からスタートした研究は、研究を推進していく研究部内での共通理解から始めました。毎週夜遅くまで議論を交わす日も少なくありませんでしたが、研究の計画を進めていく中で、本校の研究レベルが全国的に見てどのレベルなのか?客観的な評価を得るために「日本特殊教育学会」でのポスター発表という形で外部評価を得ることにしました(2年目に筑波大学にて論文1本、3年目には明星大学にて論文3本を発表しました)。そして、自分たちの研究手法や研究内容について、全国の大学や研究機関の研究者や同じキャリア教育に取り組んでいる他県の特別支援学校の研究担当者など多くの識者と意見交換をすることができ、様々な有益な情報を得ることができました。さらにこれ以外にも、「教育くまもと」での誌上発表や国立特別支援教育総合研究所などの自主研修会等の機会において積極的に発表することにより、本校の研究の客観的妥当性について確証を得ることができました。



「2013 日本特殊教育学会」での発表の様子。(於: 明星大学)

2 研究発表会当日の様子



「公開授業」の様子。子ども達は、多くの参観者を前にも通り熱心に授業に取り組みました。

去る1月25日(土)、本校にて公開研究発表会を開催しました。当日は、県内外から教育関係者・大学生等、250名を超える参加者を迎え、活発な意見交換ができました。

当日は、Ⅰ公開授業、Ⅱ開会行事・研究発表、Ⅲ本校全教師による実践発表「ポスターセッション」、Ⅳ全体会の日程で予定通り行うことができました。

Ⅰ公開授業は、多くの参観者に本校の普段の授業実践を見ていただき、アンケート等で貴重なご意見をいただくことができました。

Ⅱ開会行事・研究発表では、熊本県教育長教育指導局特別支援教育課高橋次郎課長より、熊本県の特別支援教育の現状の課題や本校の研究の取組について、また本県の今後の特別支援教育の方向性を示される、心に響くお話を頂きました。さらに研究発表では、本校の3年間の研究の成果や各学習グループの研究について説明しました。

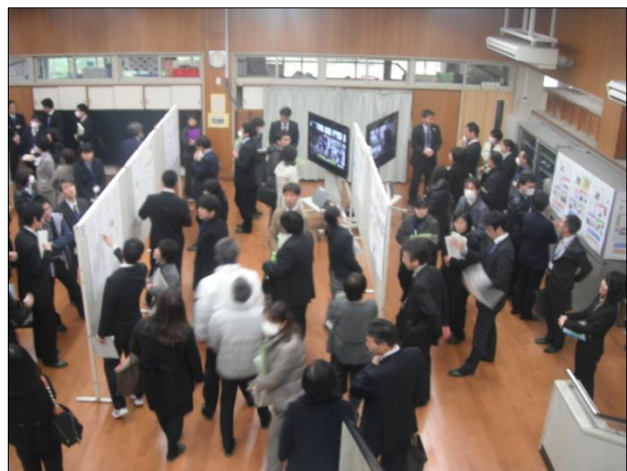
本校におけるキャリア教育への取組の目的は、キャリア教育の視点でこれまでの学校システムを見直すことにありました。それは、これまでの「前年踏襲型」から「学ぶ組織」「生み出す組織」への転換であり、教師自身の「意識改革」と「共同性」を促進するものです。本校のみならず県内特別支援学校等、多くの学校における共通の課題に対するひとつの解決方略であると考え、今回研究の成果としてまとめ提案しました。

Ⅲポスターセッションは、今回の本校の研究を全員で進めていくための重要な研究システムであり、本校教職員の「意識改革」の成果です。当日は四つの会場に学習グループ毎(小学部・中学部・高等部・重複学級)に分かれ、キャリア教育の視点で一人一事例の実践をポスターにまとめたものを前に、参観者と自由に意見交換しました。本校の「セッション」を重視した取組の良さをダイレクトな意見交換を通して伝えることができました。

Ⅳ全体会では、「キャリア教育の目指す姿と本校の将来像」と題して、ファシリテーターの方を中心に6名のシンポジストの方々にPATHミーティングの手法を基に協議していただきました。その模様は、本校職員が即時に記録し、協議が視覚的にも参加者に分かるようにしました。話し合いのルールを確認し、話し合いの視点を明確にしながら意見を交換し、また、その模様をイラストとキーワードになる言葉を即時に記録していくことで、参加者も話し合いの概要を掴むことができ情報の共有を図ることができました。今回提示した話し合いの手法は、本校で児童生徒の長期的な個別の支援計画作成時に関係者間で話し合いをもつ際に実際に採用した手法です。今回、参加者にも実際に体験していただくことで、組織の「共同性」に対する一つの方法を提案することができました。今後は、今回の研究をベースにさらに発展・深化させ、ARA・SHIの教育プログラムを提案したいと考えています。



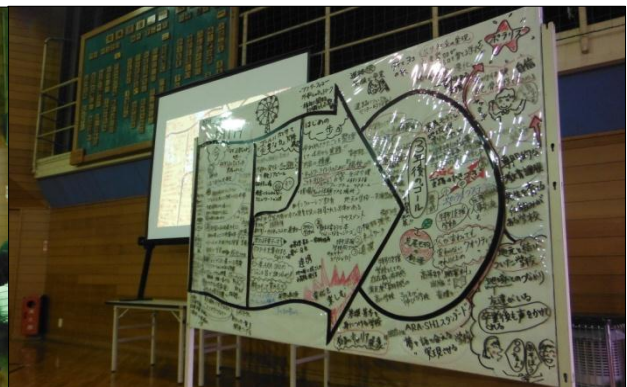
「全体会」の様子。県内外から多くの参加者が集い、活気のある研究発表となりました。



「ポスターセッション」の様子。本校職員と参加者、あるいは参加者同士、活発な意見交換が交わされました。



「全体会」シンポジストの方々



PATHミーティングの記録(ワード・イラスト即時記録)